

豊かな杜を、まちに彩りと潤いを――。

「あしたのみどり」が育む 再生と協働の新たな物語

あしたのみどりキャンペーンは、市民企業・行政が一体となり、杜の都のみどりを未来につないでいくことを目的に2009年にスタートし、今年で13年目を迎えました。今回の紙面では、海岸林再生のため植樹を行った小学生の活動と、みどりを育むために、地域の花壇づくりを実施した町内会の取り組みをご紹介します。

仙台市立吉成小学校

震災の被害に思いを寄せ 未来のために海岸防災林に植樹

震災遺構荒浜小学校で 津波の脅威を体験

晴天に恵まれた11月2日、仙台市立吉成小学校の3年生が、校外学習の一環として震災遺構仙台市立荒浜小学校を訪れました。3年生の全55人、それぞれのクラスに分かれ、施設スタッフの案内で館内を見て回りました。



荒浜小学校を襲った津波について説明する施設スタッフ。子どもたちはその言葉に耳を傾け、中には熱心にメモをとる児童もいました。

まず4階に向かい、地震発生から避難津波の襲来そして救助されるまでの経過を写真や映像で振り返るとともに災害の備えについても学習。さくらに上るのぼりて荒浜地区全体を見渡しながら、被災前の風景を写した写真と目の前に広がる現在の風景を見比べ、その変貌ぶりを確かめることができました。

その後は降りに降り、2階まで押し寄せた津波の到達点を確認。1階の床や天井などには生々しい津波の痕跡が今も残っていました。最後に案内していた花いたスタッフからの「津波注意報 津波警報が出たらどうしますか」という質問には「高いところへ逃げよう」とみんなが答え、有意義な校外学習となりました。



次に大津波が来ても逃げられるよう避難の丘を整備し、道路をかき上げたことをスタッフが模型を使って説明

海岸林の成長に必要な 広葉樹の苗を植樹

午後からの校外学習は、震災遺構仙台市立荒浜小学校から近い海岸防災林での植樹。最初に仙台市の百年の杜推進課の担当者より、海岸林を再生するために植樹をお願いしたいとのあいさつがありました。海岸防災林は、海側にクロマツを植え



豊かな森を再生させるため、クロマツの海岸防災林の内側に広葉樹を植樹。子どもたち一人一人が、移植スコップで穴を掘り、そこにコアラエノキ、ヤマハンノキを植えています。



初めての植樹体験でうれしかったと、にこやかに話す藤井藤菜(ふじいりいな)さん。



関係者を含め、植樹を終えた全員で記念撮影。ふるさとへの思いを込めた児童たちのメッセージも一緒に掲げました。



ドリフトをボットに埋めた廣谷柚花(ひろたけりな)さん。芽が出るのを心待ちにしています。

その内側に広葉樹を植えることで豊かな森を築いていくという思いも、こうした配置にするのは、クロマツだけではなかなか生き物が育たず、広葉樹が葉を落とすことで、落ち葉を食べる昆虫が来ると、その昆虫を食べる哺乳類や鳥類が来て、豊かな森になっていくためと説明されました。植えるのは、1組がコアラエノキ、2組がコアラヤマハンノキ、いずれも広葉樹です。児童それぞれが移植スコップで穴を掘り、その穴に苗木を植え、土を苗木に乾かして手で押さえつけていきます。最後に乾燥防止のため木材チップを木の根元に置き、植えた後は、3年1組の廣谷柚花さんは、「トンダリから芽が出てくるのが楽しみ」と今後の生育を期待していました。コアラエノキは3年ほどで移植できる状態になることから、この日に埋めたトンダリが3年後に大きく育ち、市民らの手で植樹さ



区内にコアラエノキなどを植えた後は、ボットの中の土にドリフトを埋めることに。市の担当者からは、ドリフトを横にして埋めようとの説明がありました。



環境をよくするため花壇づくりをはじめたという町内会長の鶴谷民司(つるやみんじ)さん。

公共緑地を活用して 4年前から花壇づくり

仙台市の郊外、県民の森に囲まれた丘陵地に広がる鶴谷丘団地。その中で最も住民が多いのが、1200世帯、約3000人が暮らす鶴が丘二丁目です。二丁目内会では、仙台市が管理する送電線下の公共緑地の草刈りを年に2回ほど行ってきたものの、ただ伸びた草を刈るだけの繰り返しではなく、もう少し有効活用しようという声が上がりました。

1年目、2年目は肥料を入れ、苗を植えた後は、見事に花を咲かせてくれました。しかし去年あたりから、初めは咲くものの夏あたりから枯れるようになったとのこと。去年は長梅雨があったため雨のせいかななど思っていたのですが、今年も同じでした。そこで専門家の助けを借りようと考え、支援に応募しました。本キャンペーンの協力団体「花と緑の力」で、11プロジェクト(花プロジェクト)の鎌田秀夫(かみたひでお)さんが現地を視察したところ、今後を考えたらきちんと整備した方がいいという結論に至りました。

住民のパワーに加え 大学生もサポート

柔らかな日差しが注ぐ11月14日(日)。町内会の花壇チームに加え、親子連れなども含め20数人が集まり、花壇にヒヨコの苗やチューリップの球根などを植えていきます。実は当日までの約1週間、花壇チームは花壇の枠とネットを組んだり、敷石を敷いたり大手前の活躍でした。一素人の方だけでこれだけの花壇をつくれ



育ったチューリップの球根を掘り起こし、次に植えるために手入れをする町内会の花壇チームの方々

環境をよりよく整備し 花とみどりのあるまちづくりを



仙台市の公共緑地を借りて花壇を設置。白色のレンガを並べて花壇の枠としています。傾斜地なので施工が難しいものの、花壇チームの力を結集して見事に完成させました。



このこのメンバーはすごいと作業を指導し見守った鎌田さんも感心しきり。花壇は傾斜地に設けられているため、水はけは良好。ただし土に保水力がないことから、保水力のある土壌に保水剤をいれ、また、花壇への入り口付近にはラバンディン系ペーパーのグロントという品種を定植。グロントは蒸れや湿気に強いため、品種でないとは平野側は夏を越すのが難しいとのこと。こうしたことが原因で昨年と今年の夏に花が枯れました。というのが鎌田さんの診断でした。

花壇づくりには、仙台白百合女子大学の学生も参加。1年生の活動団体「地域生き生きプロジェクト」のメンバーとして、学生目線から地域活性化の提案やお手伝いをしていきます。また、参加理由を話してくれた菊地冬花(きくちふゆか)さん。鶴が丘二丁目町内会では、花壇づくりをはじめ、地域のより良い環境づくりを目指し、若い世代が協働しながら新しいまちづくり活動を進めています。13年目を迎えた、あしたのみどりキャンペーン。今後もみどり豊かな杜の都であり続けることを願って、市民一人一人にみどりを育むための活動を広げたいことを目指し展開していきます。



大学生の目線から地域活性化の提案やサポートを行っている菊地冬花(きくちふゆか)さん。



子どもたちがヒヨコの植え方を教える仙台白百合女子大学の学生たち。日頃から子どもたちの学習の手伝いをしてきた行事に参加したとすると、地域住民との交流を図っています。



2021 あしたのみどり キャンペーン

たくさんの投稿ありがとうございます!

わたしの好きな「みどりのある風景」



あしたのみどりキャンペーンは、特設サイトにおいて、宮城県内の「わたしの好きなみどりのある風景」を募集。その結果1,774点もの写真をお寄せいただきました。たくさんの投稿ありがとうございました。今回のファイナル特集では、その中から一部を紹介いたします。各写真の紹介文は新聞記事標準に合わせ、一部を修正している場合があります。

鈴沼(ルリ沼)・・・(色麻町)
フナ原生林の深緑に囲まれた神秘的な深沼。夏は時折白く冷気が押し寄せ、静かな涼感を包みこむ。
(2020年8月撮影) by:いのさん

鳴子温泉湖沼・・・(大崎市)
湖沼は隠れた紅葉の名所ではないでしょうか。
(2021年10月撮影) by:K.Suzuki さん

やくらいガーデン・・・(加美町)
花畑を下に降りて、教会が遠くに見える場所から撮影。きれいな花々に囲まれますがすがすがしい気分です。
(2020年10月撮影) by:タクチャン さん

秋保の霧々峡・・・(仙台市太白区)
早朝の霧々峡です。心癒やされるスポットです。
(2021年10月撮影) by:mamunosuke さん

鬼首町営牧場・・・(大崎市)
隣にはスキ野原があり、牛たちが草をはみ、のどかな風が吹き抜けます。
(2021年10月撮影) by:CHIE さん

七ツ森ふれあいの里・・・(大和町)
見晴らし合からの眺めが気持ち良かったです。
(2021年10月撮影) by:ヨウコ さん

白石の水田・・・(白石市)
秋晴れの朝、天日乾しの稲とセキカウアツチツツ、少しずつ秋の空に向かいます。
(2021年10月撮影) by:藤野のりちゃん さん

グリーンパーク不忘・・・(白石市)
不忘山の麓、大自然の美しい南蔵王園定公園内です。
(2021年10月撮影) by:CHIYOKO さん

次頁もご覧ください

ほおぼれ! ニッポンのみやぎ米!

ひとめぼれ No.1 宮城生まれの人気銘柄
ササニシキ さっぱりした味わい
だて正夢 甘くてももちもちの新銘柄
つや姫 艶があり上品な甘み

宮城米 及び キャンペーンについて詳しくは <https://m-hozenmai.jp/> みやぎ米 検索

JA全農みやぎ